

イチ おおいた市推しショット!!

～球春到来～
2月は各球団がシーズン開幕に向け、キャンプインします🎳
市ホームタウンスポーツのひとつ「大分B-リングス」も
新体制で2月1日にキャンプイン!!

選手にとって春のキャンプは、今季のレギュラー争いを賭けた
熾烈な戦い!! 期間中は過酷な日々が続きます。

そんな過酷なキャンプに挑むため、冬場の選手たちは、ゆかりの
場所や落ち着く場所、タイプの似た選手同士などで、自主トレを
行ってきました👉

今シーズンは、内川聖一選手も加入し、より一層盛り上がりの予感👉
大分B-リングスが初のリーグ制覇に向け、始動します!!



市公式 SNS では、旬な情報を発信中!



市公式 SNS はこちら▲

わが家のおかずにも! おおいた香り野菜レシピ



豚肉で巻いたせりのソテー ～フレッシュトマトソース～



JAおおいた水耕せり部会
部長 甲斐 崇さん

生産者の声



「生産者の声」
全文はこちら

日々栽培の研究を続け、ここ数年は出荷量も順調に増加しています。水耕栽培ならではの柔らかく、苦みの少ない大分のせりは評判も上々です。関東・関西への出荷が多いですが、ぜひ地元でも食べてもらいたいです。

●材料

せり 1袋 (70g)	にんにく 10g
豚ロース肉 (生姜焼き用) 40g × 4枚	ケッパー 10g
生ハムスライス 30g	アンチョビ 10g
白ワイン 20cc	薄力粉 少々
トマト 1個 (80g)	オリーブオイル 少量
	塩 少々

●作り方

- ① せりを茎と葉に分け、茎は4等分、葉は粗みじん切りにしておく。
 - ② 豚ロース肉に軽く塩をし、生ハムとせりの茎をのせて巻き、爪楊枝でとめたら薄力粉をまぶしておく。
 - ③ フライパンにオリーブオイルを入れて中火にかけ、②を全体に焼き色がつくまで焼いたら白ワインを加えてお皿に盛りつける。
- 【ソース】
- ④ トマトを5cm角に切る。
 - ⑤ 鍋にオリーブオイルを入れ、潰したにんにくを加え、香りが出たらアンチョビ、ケッパー、トマトを加え軽く煮込み、粗みじんにしたせりの葉を加えて、③に添えて完成。

レシピ提供者: Cucina Felice TAKU
オーナーシェフ 西川 拓雄 氏 農政課 ☎537-7025



大分市公式動画チャンネルでは、その他のレシピも公開中!

市民図書館からのお知らせ

市民図書館で活動する ボランティア募集

内 容: 書架の整理、資料の簡易修理、
地域資料の保存作業、読み聞
かせ(3年以上経験のある人)、
図書館行事の協力など

対 象: 市内居住の16歳以上の人
(18歳未満の人は保護者の
承諾が必要)

◎ボランティア説明会

日 時: 2月14日(火)・15日(水)・18日(土)
午前10時～(1時間程度)

場 所: J:COM ホルトホール大分
2階 201・202会議室

そ の 他: 3回とも同じ内容です。
必ず1回参加してください。
(事前申込不要)



市民図書館 ☎576-8241

このコーナーでは、市民図書館が所蔵している
新刊を紹介します。

ぼうし

こみねゆら: 作
講談社



のはらにすてきなぼうしが落ちていました。
だれのぼうしか分かりません。かわるがわる
動物たちがかぶってみますが、どうもびつた
りしません。そこへ男の子がやって来て…。
優しくて柔らかな色合いで描かれた、心がほ
んわかする絵本です。

私は怒っている

樋口 裕一: 著
バジリコ



日常のささいな出来事について著者が感じた
ことをつづった本です。年齢を重ねるにつれ物
分かりが良くなり、怒りを覚えなくなった著者
自身に対しても怒っているとのこと。そんな著
者に共感するか、反感を持つか、まずは読んで
みませんか。

人権・同和教育シリーズ 530

人の生き方を考える



もしかしたら自分も…

父とサッカーの試合を観戦してい
たときのことです。大好きなチーム
だったので、次第に応援にも熱が入
りましたが、チームは負けてしまっ
たのです。

「惜しかったな」と話す父に対し、悔
しかったわたしは「あの選手のミスが
なければ負けなかったのに。きつとみ
んなもそう思っているよ」と言い、イ
ンターネットを見ました。「ほら、やっ
ぱり」。そこにはわたしと同じように
ミスを指摘する投稿がたくさんあり、
中には選手の人格を否定するような
書き込みもあったのです。それを見た
父が「どうしてこんなことが書けるん
だろう」と言うので「あんなミスをし
るからだよ。いろいろ書かれても仕方
ないよ」と答えました。

は誹謗中傷だ。同じことを自分がされ
たらどう思うか考えても、どんなにひ
どいことか分かるはずだ」と言い、「以
前、それが原因で亡くなった人の
ニュースがあったらどう? 誹謗中傷は
人の命を奪うことにつながる。絶対に
許せない」と続けました。

もし自分がされたら…と考えると
不安と恐怖を感じました。それなの
に、わたしは「あんなミスをするから
だよ。いろいろ書かれても仕方ないよ」と
考えていたのです。そして、このま
いごと、もしかしたら自分もその考えを
投稿するようになっていたのではない
かと思ひ、さらに怖くなったのです。

後日、あの選手の談話を見ました。
そこで「一つのプレーでさまざまなこ
とを言われたとき、試合に出るのが怖
くなりました。でもそんなときに支え
てくれたのが応援してくれるみなさ
んの温かい言葉でした」と話していま
した。何気ない言葉で一人を追い込ん
だり、励ましたりすることができると
だと感じ、わたしは人を支える側にな
りたいと改めて思いました。

誹謗中傷は絶対に許されないこと
です。「姿が見えなくても、画面の向こ
うには相手がいる」ことを常に想像す
ることが大切です。

※昨年、侮辱罪が改正され、法定刑が
引き上げられました。